



陳言コラム-5

中国雑談

暮らしを楽しむ上海人

上海を本籍とする私は、いままでの人生の中で一度たりとも上海に住んだことがない。ただ親は 70 年前に上海から北京に移して住み着き、北京生まれの私は、上海が本籍となった。日本へ留学に行く間、戸籍を一旦抹消されたが、帰国して復旧する際、本籍を北京に変更した。

普通の中国人より私のほうが上海に興味を持っている。上海に出かけて言葉はまったく聞き取れないし、町の地理もほとんどわからない。タクシーの運転手さんに「何々道路と何々道路の交差するところで止まってくれ」という上海人のタクシーに乗るマナーも持っていない。地下鉄に乗って、車内放送以外にはほとんどわからない言葉の海に埋まり、ここは私のかつての本籍地かと異様に感じる。

ナンバーワンの就職希望都市

最近、前程無憂ネットが発表した報告によると、2015 年第 2 四半期において上海がこれまでと同様、求職者に最も人気のある就職希望都市として絶対的な地位を占めていることが分かった。自分の知り合いの日本人の友人も、どんどん北京から上海に移っている。

三十数年前に上海へ出張して、新聞社の支局に泊まり、北京から電話がかかってきた。呼び出しにくるおじさんは、「あなたの田舎から電話だよ」と話に来たが、どうせ上海なまりがわからず、そのまま電話口に出た。帰ってきて同室の人は「北京も田舎か」とおじさんの言い方を教えて、ずいぶん立腹したことがある。

みんな行きたいところは中心部であり、北京も上海から見れば田舎だと思っていただろう。少なくとも今までの三十年間は、広州などに殺到する時があったが、それでも上海への憧れは変わらなかったようだ。



家でゴロゴロする上海人

ほかの調査も読んだ。滴滴打車と「本来生活網」が合同で行ったデータ調査によると、北京、上海、広州、深圳の四大都市で、終業後まっすぐ帰宅する人（夕方6時から7時の間に帰宅）の割合は、それぞれ北京が38%、深圳が45%、広州が44%、そして上海が45%だった。

北京人なら終業後すぐに家に帰らない人の割合が最も高く、上海人は定時で退社する割合が最も高かった。このデータによると、最も我が家を恋しく思っているのは上海人で、その好対照をなしているのが北京人だという。性別で見ると上海人女性が最も家庭を顧みており、上海人女性全体の68%が終業後まっすぐに帰宅するという。道理で上海人男性は我が家が大好きなわけだ。

暮らし方からみれば、上海は北京よりはるかに悠々自適かもしれない。

多い訪日観光客

さらにブルームバークのサイトによると、中国からの今年の訪日旅行者数は400万人に達する見込みであり、去年の数の約1.6倍に相当する。在上海日本国総領事館の統計によると、これらの旅行者全体の40%が上海から訪れているという。全長347メートルの「海洋量子」号のようなクルーズ客船が、今年一年で250回も上海から日本に航行すると見られ、去年の110回から2倍以上に増加している。

上海はこれからも多くの若者が憧れてそこで仕事したりする都市だろう。悠々自適な生活、海外への関心などからみて、私のかつての本籍地は、中国の多くの都市とはかなり違うと思われる。

陳言 日本語日刊紙『速読中国』編集長。

連絡先: chenyan@seapush.com